

【特許請求の範囲】

【請求項1】 略水平な接雪部と、この接雪部の前端部に前上方へ湾曲して延びるように接続したアプローチ部とを有するスキー本体の下面にキールを突設したスノーモービルの操舵用スキーにおいて、前記キールにおける前記接雪部とアプローチ部との接続部分と対応する部位を平面視においてキール後部より幅が広くなるように形成するとともに、後側に向かうにしたがって幅が次第に狭くなるように形成したことを特徴とするスノーモービルの操舵用スキー。

【請求項2】 請求項1記載のスノーモービルの操舵用スキーにおいて、スキー本体を合成樹脂によって形成し、このスキー本体のキールに金属製ランナーを下方に突出するように設け、前記ランナーの前端部をキールにおける平面視において相対的に幅が広くなるように形成した部位の直後に位置付けたことを特徴とするスノーモービルの操舵用スキー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する利用分野】本発明は、スキー本体の下面にキールを突設したスノーモービルの操舵用スキーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、スノーモービルの操舵用スキーは、雪面に接する略水平な接雪部と、この接雪部の前端部に前上方へ湾曲して延びるように接続したアプローチ部とからスキー本体を形成し、このスキー本体の下面にキールを突設している。

【0003】前記キールは、スキー本体が横滑りを起こすのを阻止するためのもので、従来では前記アプローチ部から接雪部の後端部まで平面視において幅が一定になるように細帯状に形成している。また、この種のスキーとしては、軽量化を図るために、スキー本体およびキールを合成樹脂によって一体に形成したものがある。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかるに、上述したように構成した従来のスキーは、例えば、これを装備したスノーモービルが2台、前後方向に一列になって走行するような場合に、前走車のスキーによって形成された軌（スキーの移動軌跡）に後続車のスキーのキールが嵌まり込み、後続車の直進性が損なわれるという問題があった。

【0005】このような不具合は、キールの幅を相対的に広くすることによってある程度は解消することができる。しかし、キールの幅が広いと、直進性が向上はするが、旋回性能が低下するという問題が生じる。

【0006】上述した旋回性能が低下するという現象は、合成樹脂によって形成したスキーにおいて顕著に現れる。これは、合成樹脂製のスキーは、金属製のスキーに比べて弾性変形し易く、雪を押し固める力が相対的に

小さくなってしまいうからである。

【0007】本発明はこのような問題点を解消するためになされたもので、直進性と旋回性の両方に優れたスノーモービルの操舵用スキーを提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するために本発明に係るスノーモービルの操舵用スキーは、キールにおけるスキー本体の接雪部とアプローチ部との接続部分と対応する部位を平面視においてキール後部より幅に形成するとともに、後側に向かうにしたがって幅が次第に狭くなるように形成したものである。

【0009】本発明によれば、キールは幅が相対的に広い部位から雪に接するから、前走車によって形成された軌などに嵌まり込み難くなる。また、旋回時には、相対的に幅が狭いキール後部が雪の中に深く入り込む。

【0010】請求項2に記載した発明に係るスノーモービルの操舵用スキーは、請求項1に記載したスノーモービルの操舵用スキーにおいて、スキー本体を合成樹脂によって形成してキールに金属製ランナーを下方に突出するように設け、このランナーの前端部をキールの相対的に幅が広い部位の直後に位置付けたものである。

【0011】この発明によれば、キールの相対的に幅が広い部分で均されるとともに押し固められた雪にランナーが押し込まれるようになる。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係るスノーモービルの操舵用スキーの一実施の形態を図1ないし図6によって詳細に説明する。図1は本発明に係る操舵用スキーを装備したスノーモービルの側面図、図2は本発明に係る操舵用スキーの側面図、図3はスキー本体を示す図で、同図(a)は平面図、同図(b)は底面図である。図4はスキー前部の縦断面図、図5はスキー後部の縦断面図である。図4の破断位置を図3(a)中にIV-IV線によって示し、図5の破断位置を図3(a)中にV-V線によって示す。図6はスキーの横断面図で、同図(a)は図3(a)におけるA-A線断面図、同図(b)は図3(a)のB-B線断面図、同図(c)は図3(a)におけるC-C線断面図、同図(d)は図3(a)におけるD-D線断面図である。

【0013】これらの図において、符号1で示すものは、この実施の形態によるスノーモービルである。このスノーモービル1は、車体上部にシート2と操舵ハンドル3を備え、車体後部であって車幅方向の中央部に、図示していないエンジンによって駆動する駆動ユニット4を搭載している。

【0014】この駆動ユニット4は、ゴム製のキャタピラ5と、このキャタピラ5が摺接するアルミニウム合金製のスライドラール6と、このスライドラール6に支持させた車輪7などを備えた従来周知の構造を採ってい

に進ませることができる。言い換えれば、直進性能を向上させることができる。

【0028】また、旋回時には、相対的に幅が狭いキール後部17が雪の中に深く入り込むから、雪を強く押し固めて進行方向を確実に変えることができる。このため、旋回性能も高くなる。

【0029】さらに、この実施の形態によるスキー9は、スキー本体11を合成樹脂によって形成してキール17に金属製ランナー13を下方に突出するように設け、このランナー13の前端部をキール17の最大幅部17cの直後に位置付けているから、キール17の相対的に幅が広い部分で均されるとともに押し固められた雪にランナー13が押し込まれるようになり、軽量化を図るためにスキー本体11を合成樹脂で形成しているにもかかわらず、旋回性能をより一層向上させることができる。

【0030】なお、この実施の形態ではスキー本体11を合成樹脂によって形成する例を示したが、スキー本体11を形成する材料は金属でもよい。

【0031】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、キールは幅が相対的に広い部位から雪に接するから、前走車によって形成された粒などに嵌まり込み難くなり、旋回時には、相対的に幅が狭いキール後部が雪の中に深く*

*入り込む。

【0032】したがって、直進性と旋回性の両方に優れたスノーモービルの操舵用スキーを提供することができる。

【0033】請求項2記載の発明によれば、キールの相対的に幅が広い部分で均されるとともに押し固められた雪にランナーが押し込まれるようになるから、スキー本体を合成樹脂によって形成して軽量化を図ることができるとともに、旋回性能をより一層向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 図1は本発明に係る操舵用スキーを装備したスノーモービルの側面図である。

【図2】 本発明に係る操舵用スキーの側面図である。

【図3】 スキー本体を示す図である。

【図4】 スキー前部の縦断面図である。

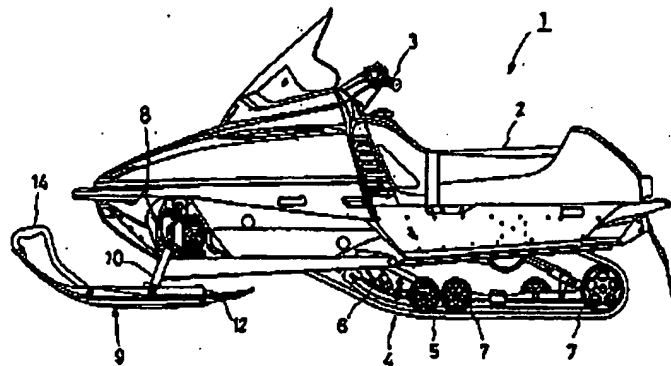
【図5】 スキー後部の縦断面図である。

【図6】 スキーの横断面図である。

【符号の説明】

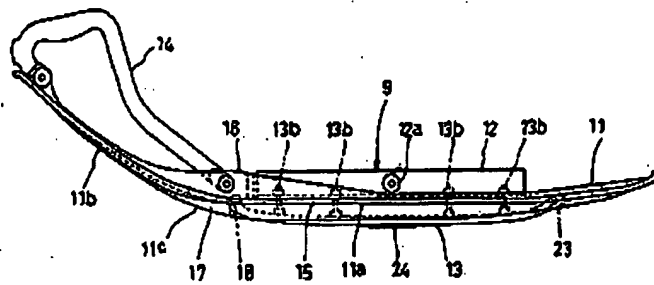
20 1…スノーモービル、9…スキー、11…スキー本体、11a…接雪部、11b…アプローチ部、13…ランナー、17…キール、17b…キール後部、17c…最大幅部、

【図1】

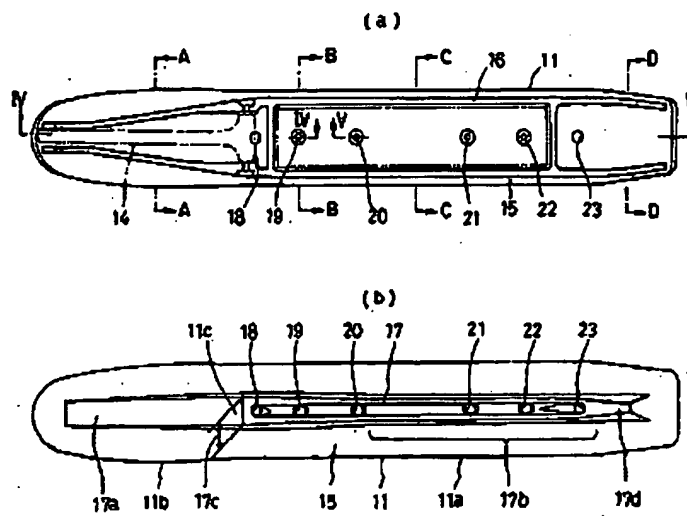


BEST AVAILABLE COPY

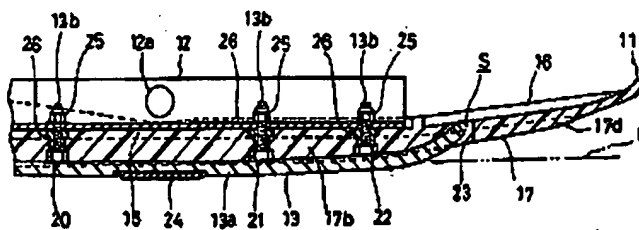
【図2】



【図3】

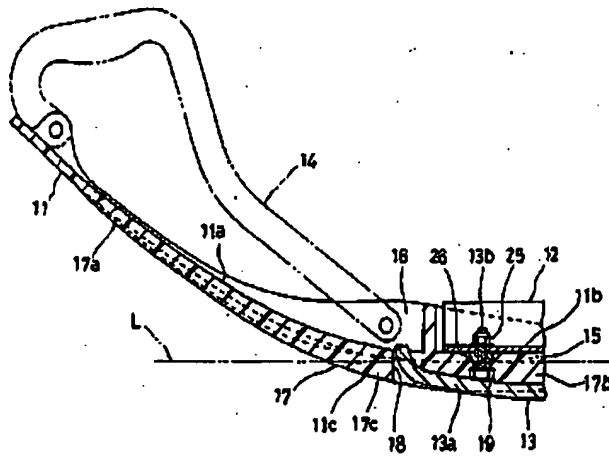


【図5】



BEST AVAILABLE COPY

【図4】



【図6】

